

川 目 A 遺 跡

— 国道106号線改良に伴う市道建設関連発掘調査報告書 —

2009.3

盛岡市教育委員会

例 言

1. 本書は、盛岡市川目第5地割に所在する川目A遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書は、平成20年度に実施した国道106号線改良に伴う市道建設関連発掘調査の報告書である。なお、平成12年度にも水道施設建設に伴い発掘調査（第4次調査）を実施しており、今回、関連調査として附章に掲載しているが、平成12年12月24日に発生した、盛岡市教育委員会埋蔵文化財調査室の火災により多くの図面等の資料が消失しているため、残存資料から復元した調査区全体図および代表的な遺物実測図・写真図版のみを掲載した。
3. 第4次調査の遺構番号は調査現場で振り分けた番号を使用している。
4. 本書は編集執筆に佐々木亮二があたり、千田和文、室野秀文、菊地幸裕、津嶋知弘、三浦陽一、神原雄一郎、今野公顕、花井正香が協議して編集した。
5. 遺構記号は次のとおりである。

竪穴住居跡：RA、土坑：RD、配石遺構：RH、埋設土器：RP

6. 調査体制 — 平成20年度 —

教育長	八巻恒雄
教育部長	宇夫方正人
教育次長	菊地 誠
歴史文化課長兼遺跡の学び館館長	武藤英富
歴史文化課課長補佐	千葉良高(文化財史跡担当)、佐藤和男(遺跡の学び館担当)
副主幹	千田和文
文化財主査	室野秀文、菊池幸裕、津嶋知弘
文化財主任	三浦陽一、神原雄一郎、権頭裕子、今野公顕、花井正香
文化財主事	佐々木亮二
文化財調査員	鈴木賢治、浅沼のぞみ

また、調査の実施及び報告書の作成にあたり下記の方々より多大な御援助と御協力を賜った。ここに御芳名を記して深く謝意を表する（敬称略）。

[発掘調査] 齊藤三郎、野中 蕃

[室内整理作業] (図面作成・トレース) 泉山紀代子、竹花栄子 (遺物トレース) 藤村睦美、村上美香
(遺物実測) 佐々木紀子

[調査協力・助言]

岩手県教育委員会、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、奥 須磨子、高木 晃、八木勝枝

7. 発掘調査にともなう出土遺物および諸記録は、盛岡市遺跡の学び館で保管している。

目 次

例 言
目 次

挿図目次・図版目次・表目次

I. 環 境	
1. 環 境	1
2. 周辺の遺跡	2
II. 調査成果	
1. 過去の調査	4
2. 平成20年度調査	6
附章. 川目A遺跡第4次調査の概要	8

挿 図 目 次

第1図 川目A遺跡位置図	1
第2図 地形分類と周辺の遺跡分布	3
第3図 川目A遺跡全体図	5
第4図 川目A遺跡第7次調査No.4トレンチ東壁断面および層位模式図	6
第5図 第7次調査区全体図	7
第6図 第4次調査区全体図	9
第7図 配石遺構平面図	10
第8図 川目遺跡群出土ヒスイ	11

写真図版目次

第1図版 川目遺跡群全景、川目C遺跡第1・2次調査全景	
第2図版 第4次調査区遠景・全景	
第3図版 第4次調査区東側全景・西側全景	
第4図版 川目C遺跡・川目A遺跡第4次調査・川目遺跡出土ヒスイ、第4次調査出土アスファルト	
第5図版 RH102・111・130配石遺構全景	
第6図版 RH114・115・031配石遺構全景	
第7図版 RH101・132・133配石遺構全景	
第8図版 RH131・103・136配石遺構全景	
第9図版 RH102配石遺構土器出土状況、RD311土坑遺物出土状況、アスファルト出土状況	
第10図版 ピット内ヒスイ出土状況、RD170土坑丸玉出土状況	

表 目 次

第1表 川目A遺跡調査成果一覧	4
第2表 川目遺跡群出土ヒスイ一覧	12

I. 環 境

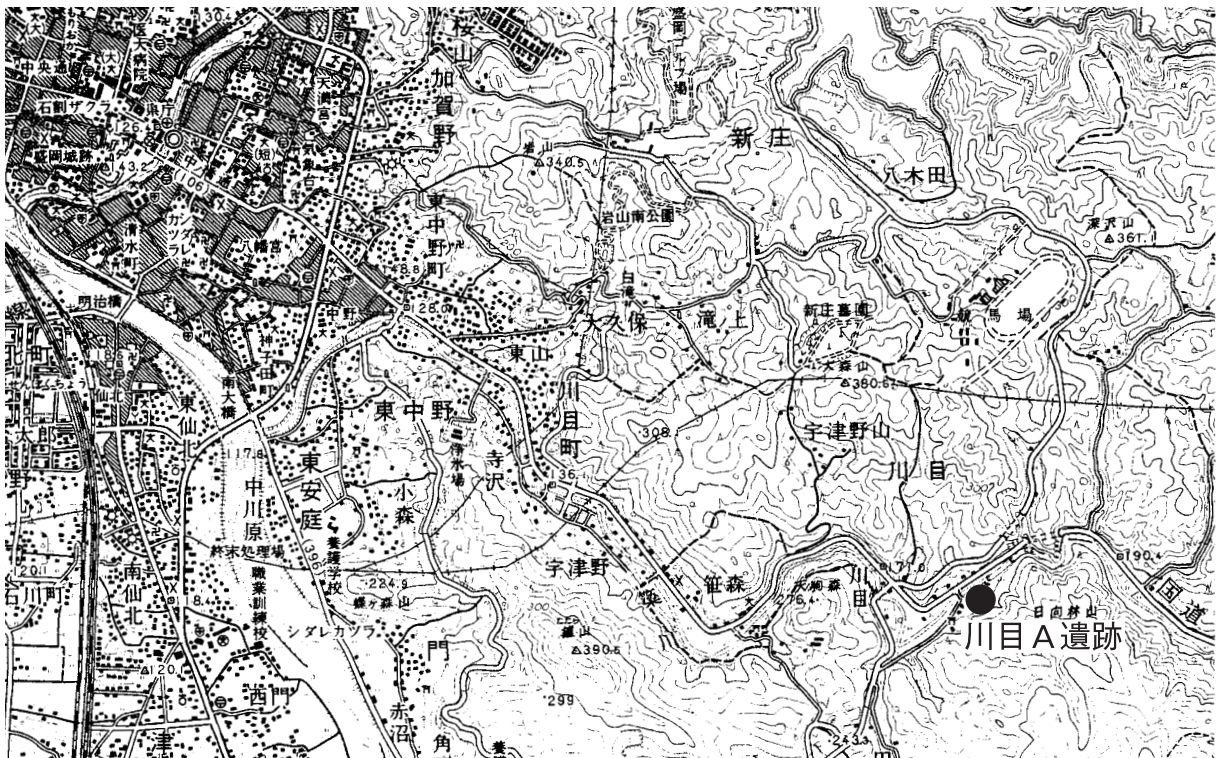
1. 環 境

遺跡の位置 川目A遺跡は、JR東北本線盛岡駅から南東に約7.5km、盛岡市川目第5地割内に所在する。現況は水田・畑地などの農地が主体となっている。遺跡範囲は東西約400m、南北約150mと推定され、標高は179m前後である。

地形・地質 盛岡市は東に北上山地、西に奥羽山脈を擁し、北西には岩手山（2,038m）を望む。中央の北上平野には東北一の大河である北上川が流れる。北上山地と奥羽山脈は、構成する地質やその形成年代が異なるため、東西の地形の様相は大きく異なる。また、岩手山を含む八幡平火山地域の火山活動も盛岡の地質・地形に大きく影響を及ぼしている。

北上山地 北上山地はその主要な境界である早池峰構造帯により、北部北上山地と南部北上山地に区分される。盛岡市東部は早池峰構造帯の西縁にあたる。これらの山地縁辺には、中津川・築川などの北上川水系の河川やその支流により浸食された丘陵地や中位・低位の段丘が発達している。

築川流域 築川は盛岡市東部、北上山地の分水嶺となる岩神山（1,103m）の西斜面より流れ、最大支流である根田茂川と盛岡市水沢付近で合流し、閉伊街道（宮古街道）に沿って蛇行しながら、盛岡市東安庭付近で北上川と合流する。その流れは丘陵地や高位段丘面を開析して流域沿いに中・小規模な低位段丘を形成する。川目A遺跡はこの低位段丘上に立地している。



第1図 川目A遺跡位置図（1：50,000）

2. 周辺の遺跡

川目C遺跡 川目A遺跡の周辺には縄文時代の遺跡が多く点在している。発掘調査が行われた遺跡としては、本遺跡の北西約300mのところ川目C遺跡がある。平成6・7年度に盛岡市教育委員会によって、新盛岡競馬場に繋がる市道川目・八木田線建設にともない発掘調査が行われた。調査期間は第1次調査が、平成6年7月25日～12月9日、第2次調査が平成7年4月3日～10月25日、調査総面積は8,850㎡である。

検出された遺構は縄文時代中期の竪穴住居跡294棟、土坑911基、晩期の竪穴住居跡4棟、早期～晩期の遺物包含層4ヶ所、平安時代の陥し穴状遺構36基、室町時代以降の人口平坦地4ヶ所、江戸時代の積石塚1基である。出土した遺物は縄文時代中期の土器・石器を主体とし、出土量はコンテナ1,550箱にもおよんだ。

集落の規模 発掘調査区は、舌状台地上に形成された縄文時代中期集落の中心部をほぼ東西に横断している。推定される集落の全体規模は南北約170m、東西約80mである。集落は主に竪穴住居跡と土坑群によって形成され、集落の東西の斜面部には遺物包含層が形成されている。

中期の集落 竪穴住居跡は大木7a式～9式期のものが確認されたが、主体は大木7b式～8b式期である。住居群は台地の縁辺部に環状に重複して分布しており、台地中心部の東西30m、南北40mは住居跡の空白域になっている。特徴的な住居跡としては、長軸約11.5m・短軸約7.5mの楕円形の大型住居、階段状の出入り口を持つ深さ約1.2mの住居、壁際にテラス状の高まりを持つ住居、伏甕が埋設された住居、大型の複式炉をもつ住居などが確認された。

土坑群 土坑群も大木7a～9式期のものが確認されているが、やはり主体は大木7b～8b式期である。土坑群は集落全域に作られ、住居の密集域にも空白域にも多数重複して分布していた。形状的には直径が1.5～3m、深さ1.5～2mのフラスコ形土坑が主体であるが、検出面からの深さが3mを超える大型土坑も確認されている。土坑群のほとんどは貯蔵穴と考えられるが、検出面でヒスイが出土した土坑などは墓壇の可能性もある。

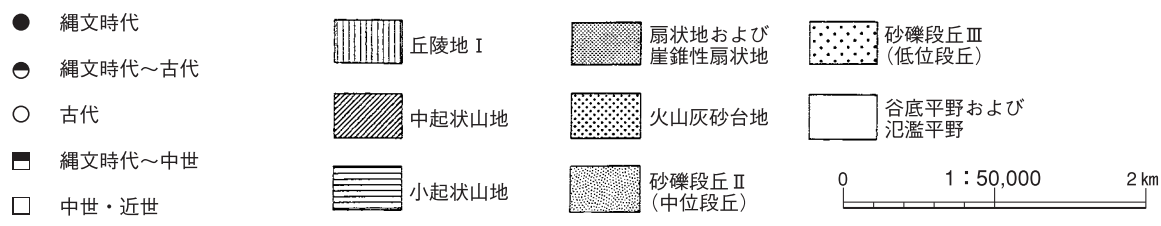
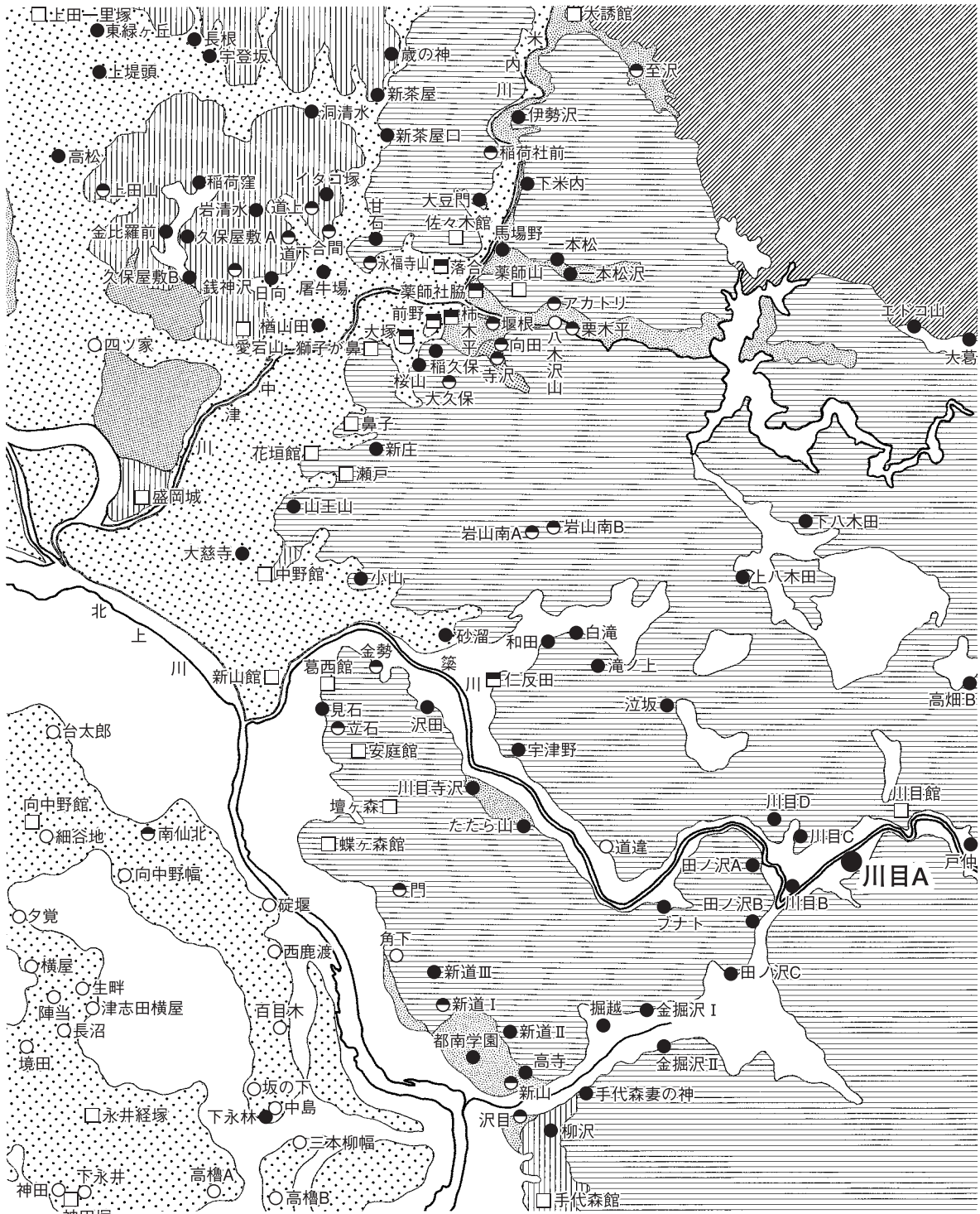
出土遺物 竪穴住居跡や土坑の埋土、遺物包含層からは多量の土器・石器・土偶・土製品・石製品などが出土している。またヒスイ製大珠・小珠（第8図1～8）、コハク原石、黒曜石製石器・原石、天然アスファルトなど、交易によってもたらされたと考えられるものも多数出土した。

晩期の集落 調査区南西部には大洞C1式期の竪穴住居跡4棟を確認したが、いずれも直径3m程の浅い小規模なものである。調査区中央部に同時期の土坑が数基分布していたが、完形の壺形土器が出土していることから墓壇の可能性もある。

古代の土坑列 調査区の北東から南西にかけて、台地上を斜めに横断する36基の楕円形の土坑列が確認されている。土坑の上端は長軸約3.0m、短軸1.5～2mの楕円形、底面は約2.0～0.5mの長方形で深さは1.5～2.0mある。埋土上部には灰白色火山灰を含む層が堆積していた。同様の土坑列は盛岡市内では大新町遺跡や堰根遺跡（盛岡市教委 2008）などでも報告されており、従来、縄文～弥生時代に属するものと考えられていた陥し穴状遺構が、平安時代にも存在することが明らかになっている。

【引用・参考文献】 津嶋知弘 1996「盛岡市川目C遺跡」第16回岩手考古学研究会発表資料

盛岡市教育委員会 2008「柿木平・堰根遺跡」浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書IV



第2図 地形分類と周辺の遺跡分布 (1 : 50,000)

Ⅱ. 調査成果

1. 過去の調査

第1～3次 川目A遺跡の発掘調査の歴史は古く、詳細は明らかになっていないが昭和10年頃に小田島禄郎氏によって調査が行われている。その後、岩手大学の草間俊一教授らによって昭和28・30・31年の3回にわたる調査が行われている。第1・2次調査では川原石の集石や焼土遺構とともに、多量の縄文時代後期～晩期の土器・石器が出土したと報告されている（草間 1954・1955）。第3次調査については盛岡市史の中で実施されたという記述（草間 1958）はあるが、詳細な場所や期間については不明である。

第4次 平成12年には水道施設建設に伴い盛岡市教育委員会によって第4次調査が行われ、やはり後期～晩期の配石遺構や土坑が多数確認されている。詳細については附章にて後述する。

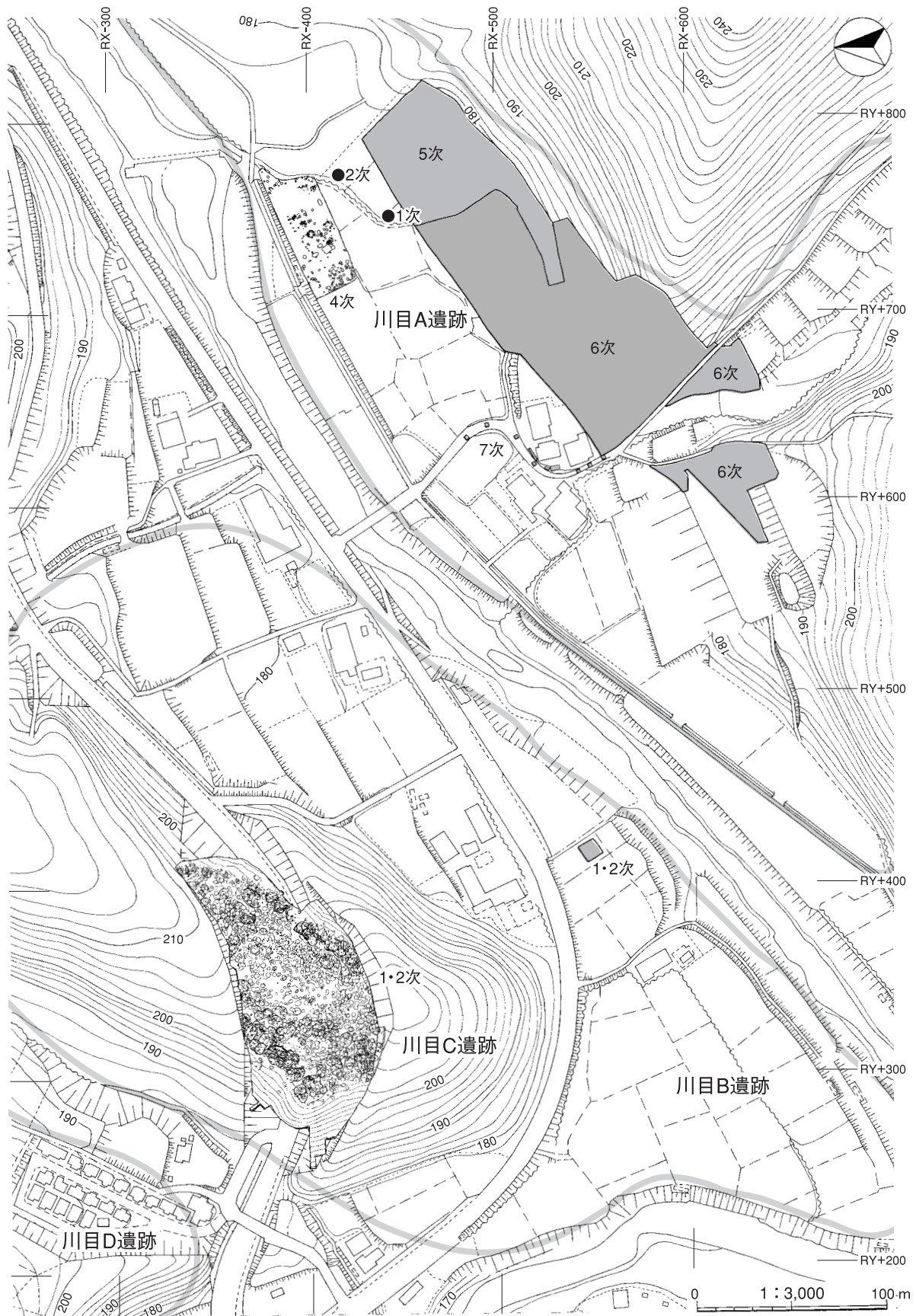
第5次 平成18年からは岩手県埋蔵文化財センターによって国道106号線改良に伴う調査が継続されている（岩埋文 2007・2008・2009）。第5次調査区は第4次調査区の南側の山際に位置し、これまでの調査と同様に縄文時代後期～晩期の配石遺構・土坑・埋設土器などが検出されている。また、配石遺構の南限が確認されている。調査は来年度以降も継続される予定である。

第6次 第6次調査区は川目A遺跡の主体となる低位段丘面より、一段高い山林の斜面部に位置している。縄文時代中期末葉を中心とした集落が確認されているほか、沢に面した平坦部で前期の竪穴住居跡も検出されている。また、縄文時代中期の粘土採掘坑も見つかっている。

川目B遺跡 築川を挟んで北岸には川目B遺跡が広がっている。平成16年に携帯電話基地局設置に伴い第1・2次調査行われている。調査期間は平成16年7月20日～27日、調査面積は90㎡である。調査の結果、縄文時代後期の土坑7基が確認されている（遺跡の学び館 2005）。

次数	所在地	調査原因	面積	期間	主な検出遺構
岩大1	盛岡市川目第5地割	学術調査	32㎡	53.11.21 53.11.25	縄文時代後～晩期の配石遺構7基、 炉跡4基、焼土遺構4基
岩大2	盛岡市川目第5地割	学術調査	95㎡	55.03.26 55.04.01	縄文時代後～晩期の配石遺構6基、 炉跡1基、焼土遺構5基
岩大3	盛岡市川目第5地割	学術調査	不明	1956年	不明
4	盛岡市川目第5地割	水道施設建設	2,161㎡	00.06.09 00.12.13	縄文時代中期の竪穴住居跡1棟 縄文時代後～晩期の配石遺構69基、 土坑400基、埋設土器5基
県埋5	盛岡市川目第5地割	国道建設	3,380㎡	06.08.01 継 続 中	縄文時代後～晩期の竪穴住居跡2棟 配石遺構45基、土坑31基、 焼土遺構21基、埋設土器11基
県埋6	盛岡市川目第5地割	国道建設	11,472㎡	07.04.10 07.11.29	縄文時代の竪穴住居跡15棟、 土坑61基、配石遺構19基、 土取り穴7基
7	盛岡市川目第5地割	市道建設	395㎡	07.08.03 07.09.14	なし

第1表 川目A遺跡調査成果一覧



第3図 川目遺跡群全体図

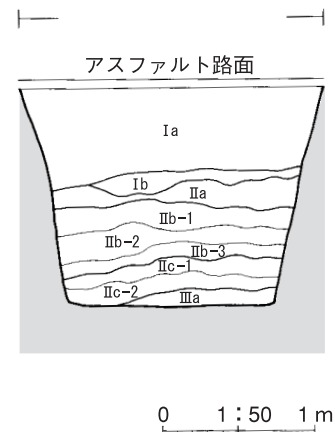
2. 20年度の調査

第7次調査 川目A遺跡は築川河床面から約3m～4m高い、河岸段丘上に立地している。今年度は、国道106号線改良に伴う市道工事として幅2m～4mの道路について、幅員の狭い個所を拡幅し、側溝を設置するなどの改良が行われることになったため、事前調査として第7次調査を行った。調査区は遺跡中央部に位置し、背後の山地から流れる沢筋にあたる。改良道路敷内に2m四方の試掘坑を7箇所設定して調査を行ったほか、道路拡幅部分の樹木抜根時に併せて、必要範囲の試掘調査を実施した。調査期間は平成20年8月22日～9月8日、調査面積は37㎡である。

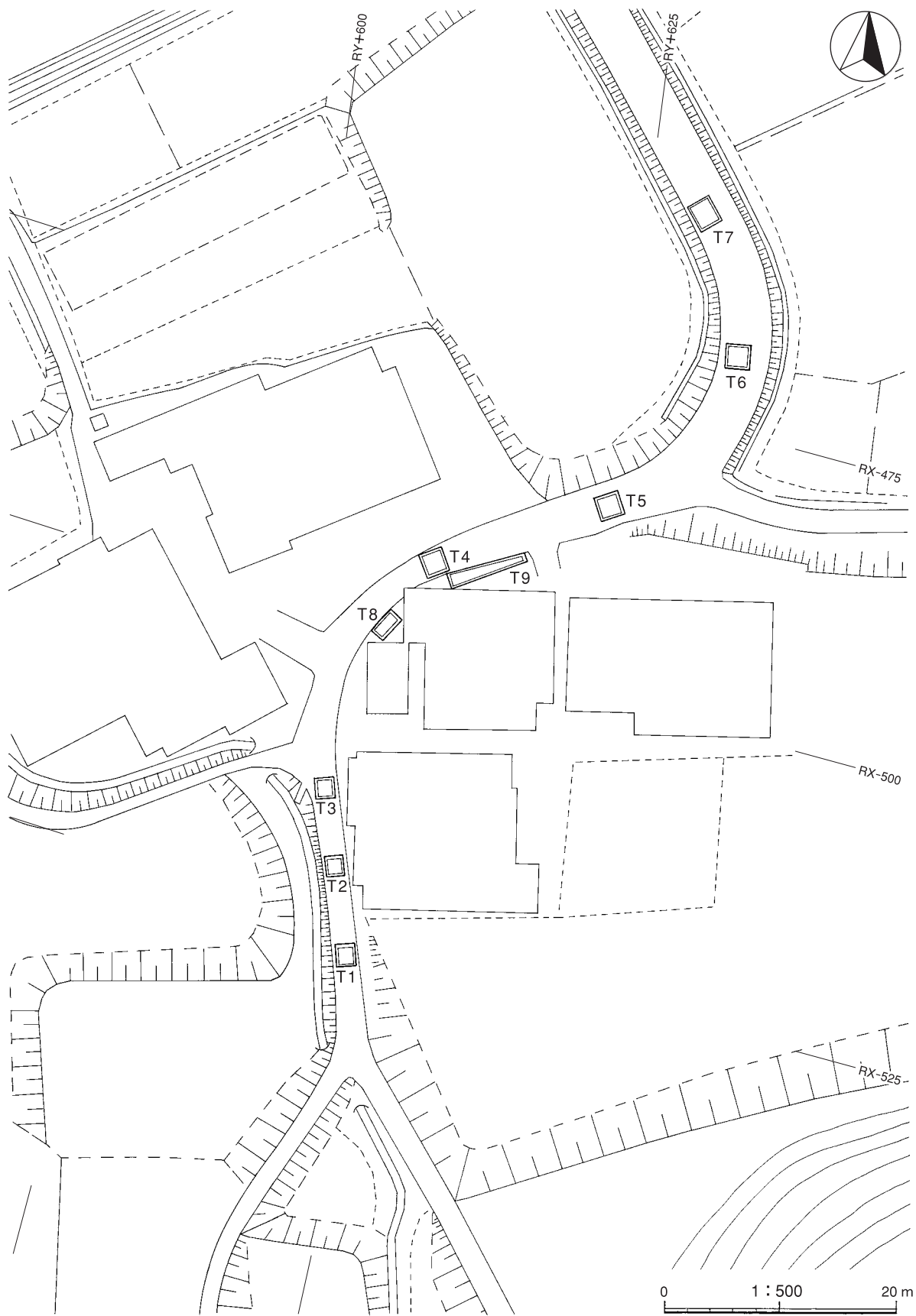
第7次調査区の東側では、第1～5次調査で縄文時代中期から晩期、中近世に至る遺構・遺物が確認されている。また、背後の山地中腹で実施された第6次調査では、縄文時代前期～中期の小規模な集落が確認されている。今回の調査地点は、それらの集落から流れ出た遺物等の包含層の存在が予想された。

試掘坑の1～3では、深さ1.4mまで掘削したが、南側後背部の沢から運ばれた、角礫の堆積が認められたのみであった。4～9の試掘坑では、最下層に黒褐色土（Ⅱc層）、その上に黒褐色土と暗褐色の砂礫層（Ⅱb層）が堆積し、上部に褐色のシルト層（Ⅱa層）が堆積していた（第4図）。調査の結果、予想された包含層は形成されておらず、調査範囲内では遺構・遺物は全く確認されなかった。

- 【参考文献】 草間俊一 1954「岩手県川目遺跡調査概報」岩手大学学芸学部研究年報第7巻第1部
 草間俊一 1955「岩手県川目遺跡調査報告（第2報）」岩手大学学芸学部研究年報第9巻第1部
 草間俊一 1958「川目遺跡」『盛岡市市史 第1巻 第1分冊1 先史記』盛岡市
 遺跡の学び館 2005「盛岡市遺跡の学び館 平成16年度 館報」
 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2007「平成18年度発掘調査報告書」第505集
 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008「平成19年度発掘調査報告書」第524集
 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2009「平成20年度発掘調査報告書」第546集



第4図 川目A遺跡7次調査No.4トレンチ東壁断面と模式図



第5図 第7次調査区全体図 (1:500)

(附章) 川目 A 遺跡第 4 次発掘調査の概要

調査の概要 川目 A 遺跡第 4 次発掘調査は、平成12年に盛岡市水道部沢田浄水場沈砂池建設に伴い、盛岡市教育委員会によって実施された発掘調査である。調査期間は平成12年6月19日～12月26日で、調査面積は2,116㎡である。

検出遺構 検出された主な遺構は、縄文時代中期の竪穴住居跡1棟、後期～晩期の配石遺構69基、土坑400基、埋設土器5基、近世の竪穴建物跡1棟、井戸跡1基である。また、調査区全面にわたり縄文時代後期～晩期の遺物包含層が確認されている。

出土遺物 出土した遺物はコンテナ約100箱分で、その大半が縄文時代後期～晩期の土器・石器である。その他に、土偶・石棒・石刀などの土製品・石製品や、土坑からはヒスイ勾玉や丸玉が出土している。また、アスファルトを貯蔵した土器なども出土している。

配石遺構 (第7図、第5～8図版) 配石遺構は、調査区全域に分布しており、69基確認された。時期は配石遺構の検出面が縄文時代晩期中葉(大洞C2式並行)の遺物包含層上部であり、大洞A式並行の土器が相伴していることから、晩期後葉と考えられる。しかし、包含層下部より検出されたものもあり、後期に属するものもある。以下、代表的なものについて記述する。

RH102配石遺構 (第7図・第5図版) 調査区中央部付近に位置する。平面形は約3×2mの長方形を呈し、長軸を北西―南東に向ける。約20～40cmの扁平な礫を並べ、その中央部には人為的な打ち欠きのある大型の礫(64×40cm)が配置されている。礫の直上からは大洞A式並行の壺が出土している(第9図版)。同じタイプにRH111・130配石遺構がある(第5図版)。

RH114配石遺構 (第7図・第6図版) 調査区中央部に位置し、平面形は直径約4.5mの円形を呈する。10～60cmの大きささまざまな礫を使用しており、小型の配石遺構が円形に配置されている可能性も考えられる。同じタイプにRH115・031配石遺構がある(第6図版)。

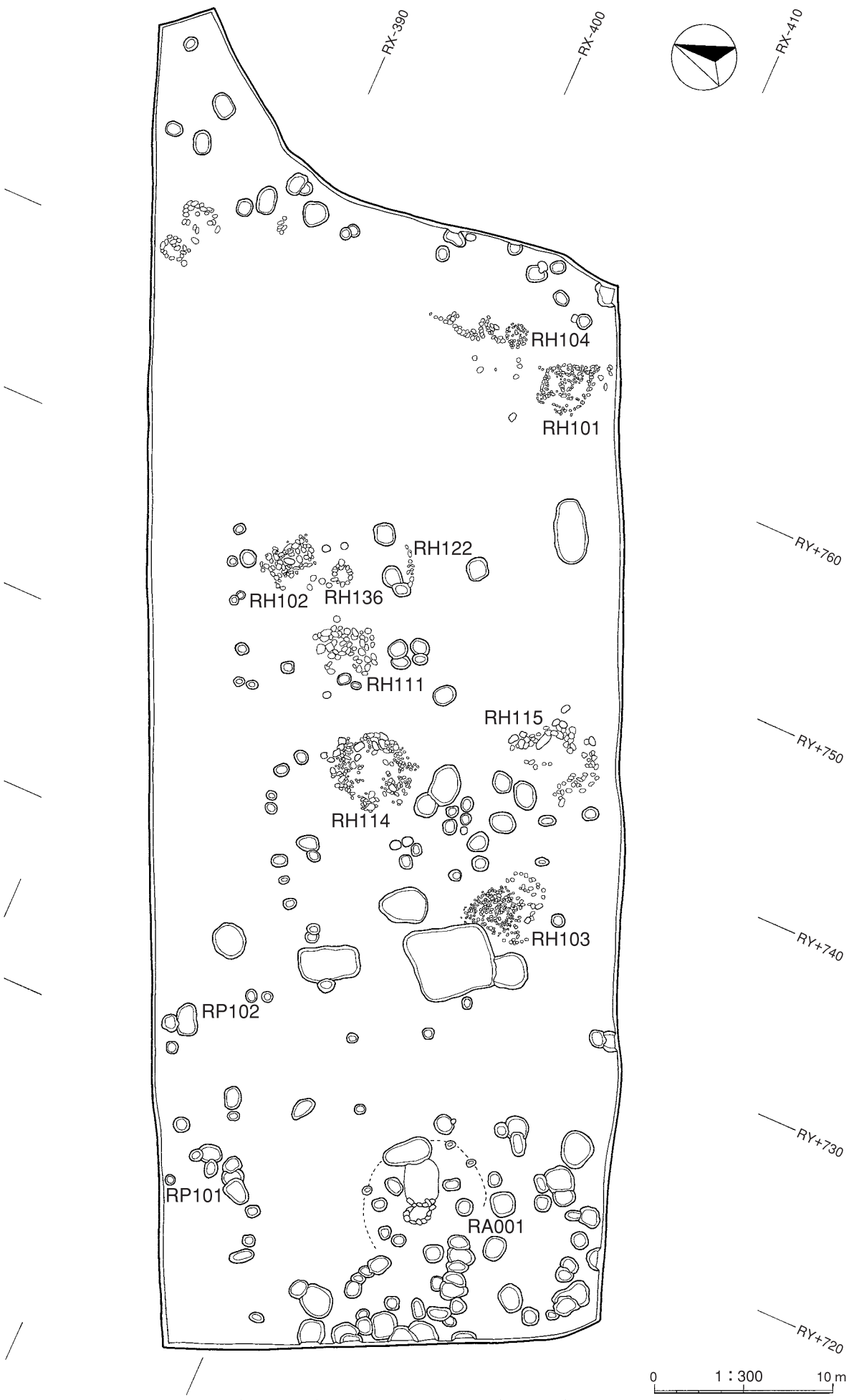
RH101配石遺構 (第7図・第7図版) 調査区南東隅に位置し、平面形は直径約3mの円形を呈する。10～20cmの礫で外縁を形成し、内部には径0.7mの組石が二つ配置され、北西―南東を結ぶ軸線上の外側にも突出した組石が2箇所ある。同じように列状に礫を並べるタイプに、RH132・133配石遺構がある(第7図版)。

RH103配石遺構 (第7図・第7図版) 調査区中央からやや南西よりに位置し、平面形は約4×3mの楕円形を呈する。10～40cmの礫を敷き詰めるように不規則に配している。

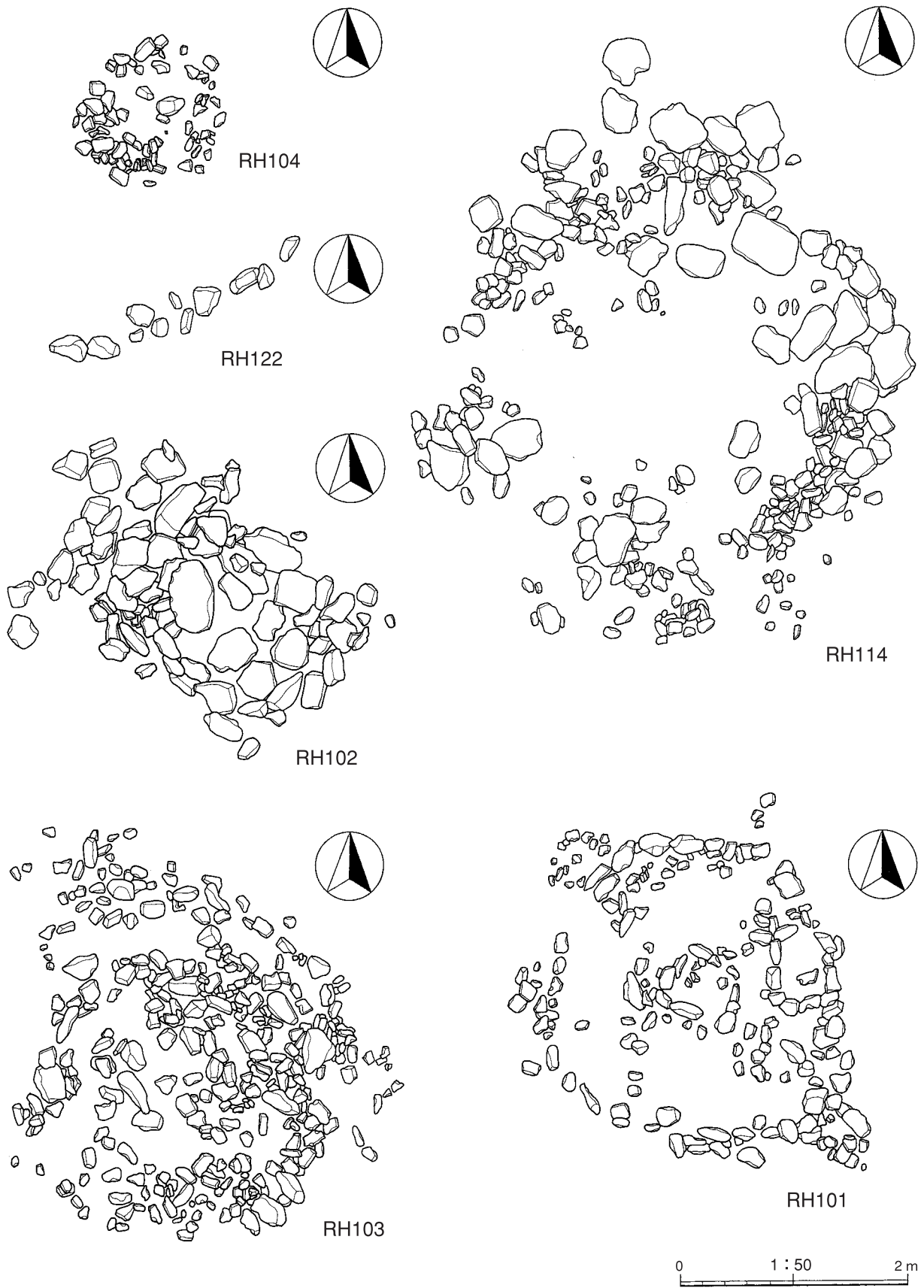
RH104配石遺構 (第7図) 調査区南東隅、RH101のすぐ北に位置し、拳大の礫を直径約1.2mの円形に配する。石囲炉の可能性もあるが、内側には焼土面は認められない。また、礫の配し方も通常の石囲炉よりも粗雑である。同じタイプにRH136配石遺構がある(第8図版)。

RH122配石遺構 (第7図) 調査区中央に位置し、北東―南西に20～30cmの礫を直列状に並べている。

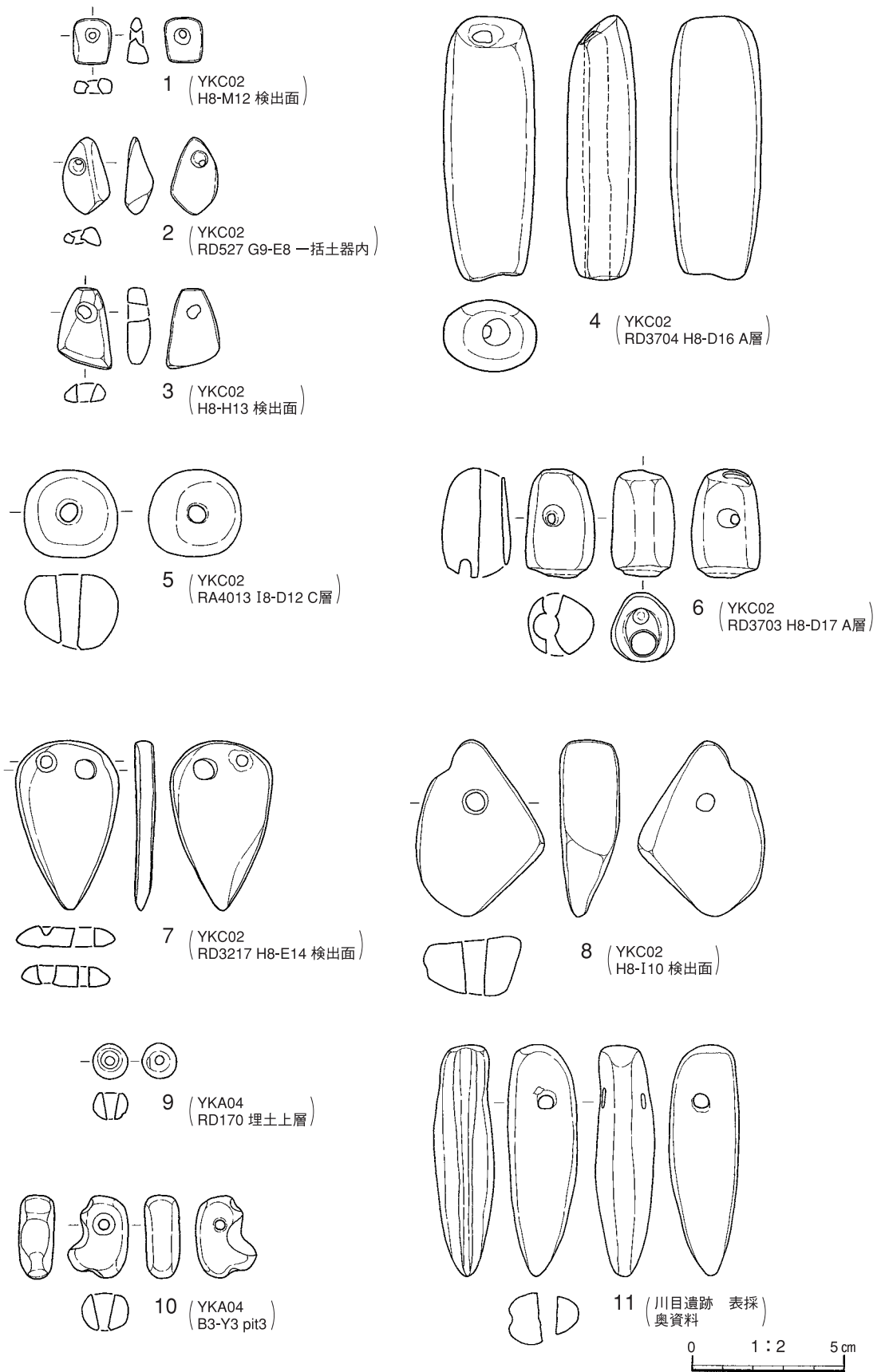
ヒスイ製品 (第8図、第4図版) 川目遺跡群は、盛岡市内で最も多くのヒスイが出土している。川目C遺跡出土のヒスイ(第8図1～8)は県内最多の出土数を誇るが、これまで罹災等の諸事情により広く公開することが出来なかった。また、奥氏所蔵の川目遺跡表採ヒスイ(第8図11)は盛岡市史に写真のみが掲載されており、詳細は不明であった。今回、岩手のヒスイ研究に欠か



第6図 第4次調査区全体図 (1:300)



第7図 配石遺構平面図



第8図 川目遺跡群出土ヒスイ

せないこれらの資料を死蔵させないためにも関連遺跡出土資料として、併せて掲載することとした。なお、第4次調査では9点（勾玉2・丸玉7）出土しているが、罹災により図示できたのは2点のみである（第8図9・10）。なお、ヒスイとしたものは肉眼観察および比重から同定したのみで理化学的分析は行っていない。

1は隅丸方形を呈する垂玉である。孔は両面穿孔されている。2は平面形が不整形、断面が三角形を呈する小珠である。両面穿孔されているが、表裏で穿孔位置にズレがあり、裏面の孔に管状錐の使用を示すヘソ状の高まりが観察できる。3は長方形を呈する小珠である。一見、小型の玉斧のようにも見えるが刃部は作り出されていない。孔は片面穿孔である。4は長軸片面穿孔の円柱形の縮締形大珠である。断面は楕円形を呈している。5は丸形の根付形大珠である。孔は片面穿孔で、表側の面を平坦に整え、光沢を帯びている。6は円柱形の縮締形大珠である。長軸片面穿孔に対し、両側面からも片面穿孔を施している。縦孔内部は横孔を境にして、上半分は鏡面光沢を帯びるほどに磨かれているが、下半分は穿孔時の輪状痕が残ったままである。また、下端部には擦切り痕と径0.5cmの未貫通孔があるが、ヘソ状の高まりは残存していない。7は上端部に二つ穿孔されている三角形大珠である。断面は扁平形で側面は全体的に丸味を帯びている。8は片面穿孔の不整形大珠である。左上端部に原礫面を残し、右下端部は鏡面光沢を帯びている。原石の形を大きく整形していないと考えられる。9は片面穿孔の丸玉である。比重が2.76とヒスイの平均比重（3.2～3.4）と比べて小さい（第2表）。肉眼観察による質感と比重から考えると、石材に蛇紋岩を使用している可能性が高い。10は片面穿孔の勾玉である。頭部と尾部の外側に刻み目が施されている。11は左側面に幅0.4～0.75cmの溝が施された大珠である。鯉節形の偏孔不整形タイプとも言えるが断面は丸味を帯びた三角形を呈する。孔は片面穿孔で、位置はやや上部に偏っている。

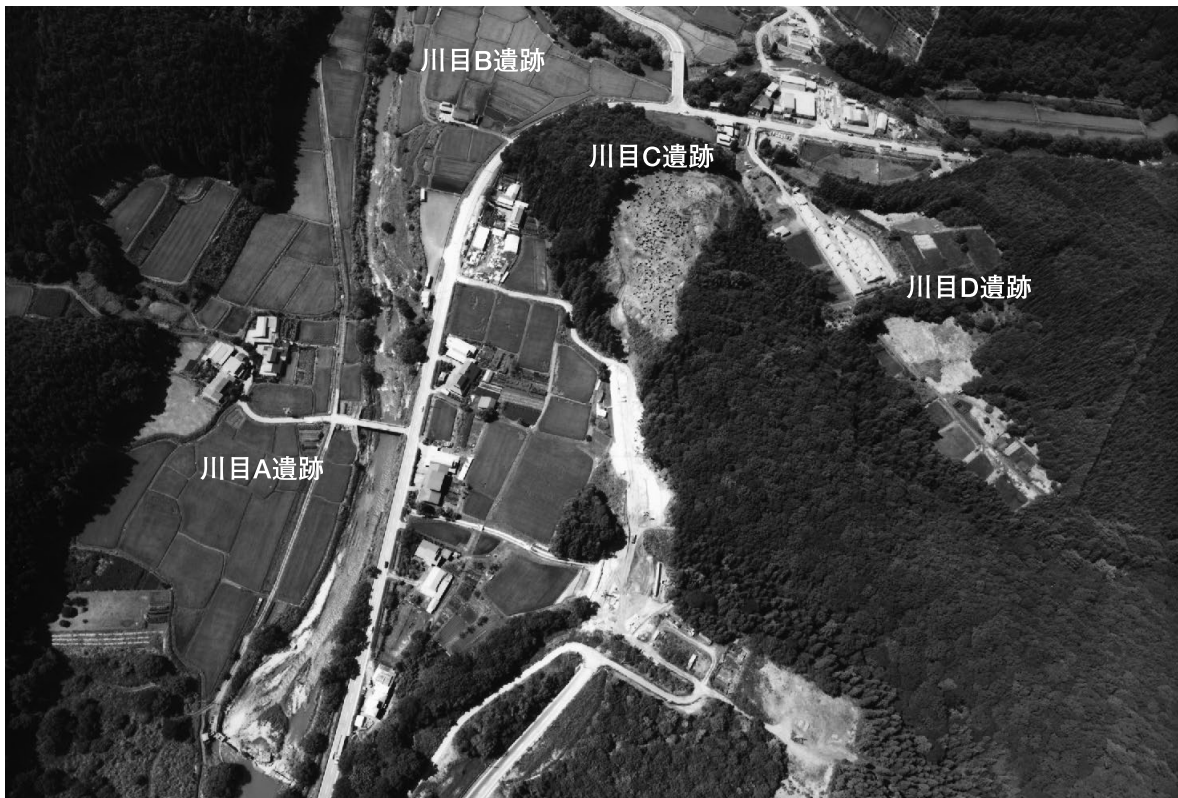
時期については川目A・C遺跡ともに資料が罹災しているため詳細は明らかにできないが、主体となる集落または遺構の時期から、それぞれ川目C遺跡は中期中葉、川目A遺跡は晩期後葉と推定される。奥氏所蔵のヒスイも表採資料のため正確な時期は不明だが、大珠の形態および遺跡の時期から中期後葉～後期前葉と推定される。

No	出土遺跡・位置等	形態	長さ	最大幅	厚さ	重量(g)	比重	石材	時期
1	YKC02 H8-M12 検出面	垂玉(方形)	1.4	1.3	0.73	2.52	3.07	ヒスイ	中期中葉
2	YKC02 RD527 G9-E8 一括土器内	小珠(不整形)	2.6	1.5	0.89	4.40	3.16	ヒスイ	中期中葉
3	YKC02 H8-H13 検出面	小珠(長方形)	2.6	1.9	0.81	6.86	3.16	ヒスイ	中期中葉
4	YKC02 RD3704 H8-O16 A層	大珠(縮締形)	8.7	3.2	2.50	139.28	3.30	ヒスイ	中期中葉
5	YKC02 RA4013 I8-D12 C1層	大珠(根付形)	3.2	2.9	2.49	41.94	3.28	ヒスイ	中期中葉
6	YKC02 RD3217 H8-E14 検出面	大珠(縮締形)	5.7	3.4	0.68	24.82	3.24	ヒスイ	中期中葉
7	YKC02 RD3703 H8-D17 A層	大珠(三角形)	3.7	2.0	2.30	31.30	3.28	ヒスイ	中期中葉
8	YKC02 H8-I10 検出面	大珠(不整形)	5.1	4.4	2.08	73.41	3.28	ヒスイ	中期中葉
9	YKA04 RD170 埋土上層	丸玉	1.1	1.1	0.94	2.12	2.76	蛇紋岩?	晩期後葉
10	YKA04 B3-Y3 pit3	勾玉	2.7	2.0	1.25	12.96	3.22	ヒスイ	晩期後葉
11	川目遺跡 表採	大珠(有溝形)	7.2	2.2	1.98	57.90	3.23	ヒスイ	中期～後期

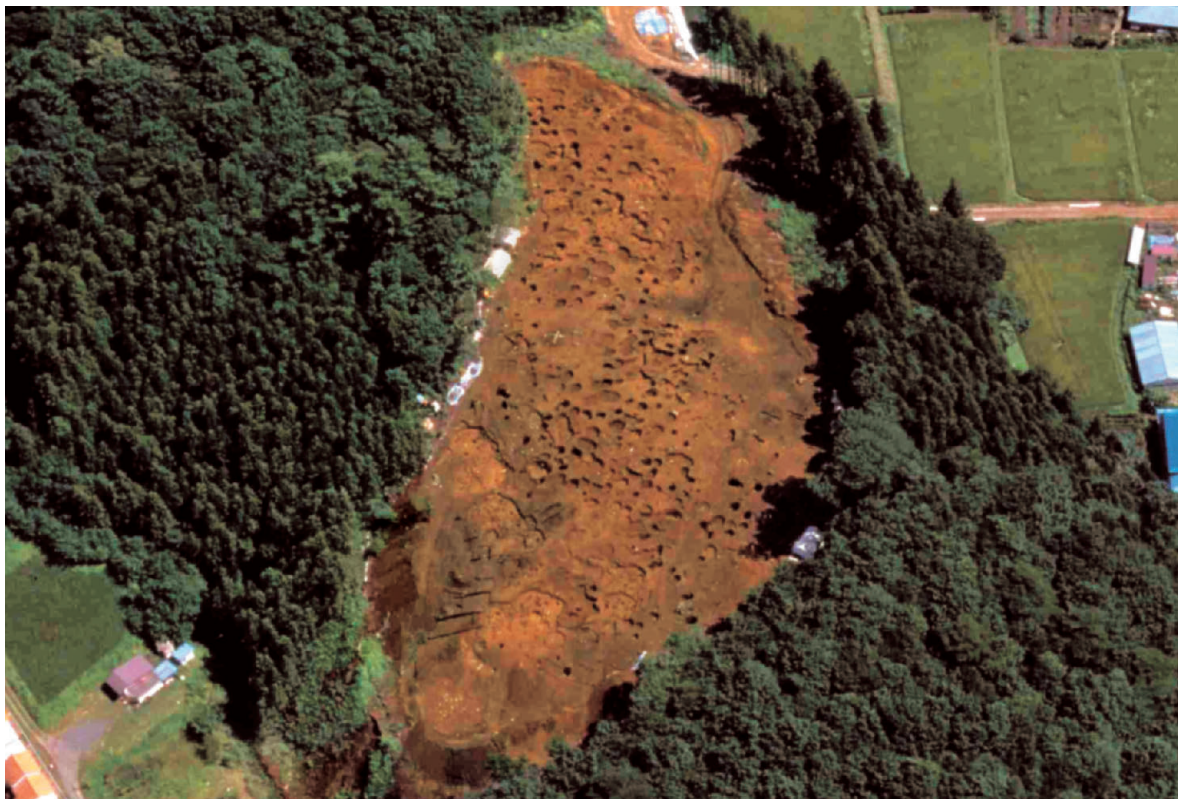
※大珠の形態および類型は鈴木克彦氏の分類に準じている（鈴木克彦 2004「硬玉研究序論」『玉文化』創刊号）。

第2表 川目遺跡群出土ヒスイ一覧

写 真 图 版



川目遺跡群全景（平成7年撮影 東より）



川目C遺跡第1・2次調査区全景（西より）

第2図版



川目 A 遺跡第 4 次調査区遠景（南より）



川目 A 遺跡第 4 次調査区全景（図版上 南）



川目 A 遺跡第 4 次調査区東側全景



川目 A 遺跡第 4 次調査区西側全景

第4図版



川目C遺跡出土ヒスイ



川目A遺跡第4次調査出土ヒスイ



川目遺跡表採ヒスイ (奥 須磨子氏 蔵)



川目A遺跡第4次調査出土アスファルト入り土器



RH102 配石遺構全景



RH111 配石遺構全景



RH130 配石遺構全景

第6 図版



RH114 配石遺構全景



RH115 配石遺構全景



RH031 配石遺構全景



RH101 配石遺構全景



RH132 配石遺構全景



RH133 配石遺構全景

第8 図版



RH131 配石遺構全景



RH103 配石遺構全景



RH136 配石遺構全景

RH102 配石遺構
土器出土状況



RD311 土坑
遺物出土状況



アスファルト出土状況



第10図版



ピット内
ヒスイ出土状況



RD170 土坑
丸玉出土状況 1



RD170 土坑
丸玉出土状況 2

報告書抄録

ふりがな	かわめえーいせき							
書名	川目A遺跡							
副書名	国道106号線改良に伴う市道建設関連発掘調査報告書							
編著者名	佐々木 亮二							
編集機関	盛岡市 遺跡の学び館							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 TEL 019-635-6600							
発行年月日	2009年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かわめいせき 川目A遺跡	いわてけんもりおか 岩手県盛岡 しかわめだい 市川目第5 ちわりちない 地割地内	3201		39° 42' 28"	141° 11' 13"	第4次 2000.06.19～ 2000.12.26	2,116	水道施設建設
						第7次 2008.08.04～ 2008.09.14		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
川目A遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 1 配石遺構 69 土坑 400 埋設土器 5		縄文時代後期～晩期 の土器・石器・土製 品・石製品・ヒスイ (勾玉2・丸玉7) ・アスファルト		縄文時代晩期の配石 遺構が調査区全域で 検出された。また、 ヒスイ製品が多数出 土した。	

川目A遺跡

—国道106号線改良に伴う市道建設関連発掘調査報告書—

2009年3月31日発行

編集・発行 盛岡市教育委員会 盛岡市遺跡の学び館
〒020-0866 盛岡市本宮字荒屋13番地1
TEL 019-635-6600

印刷 株式会社 阿部印刷
〒020-0873 盛岡市松尾町2番2号
TEL 019-624-2242